

第2学年の取組

(1) 実践内容 「この町大すき!」「みんな生きている」

① はじめに

児童は、学校での生活や学習、特に生活科で地域の方と交流しながら行う活動など、様々な場面で人とのかかわり合っていく。それらの活動をより充実したものにしていくためには、聞く・話す・話し合うといった学習で必要とされるスキルのみならず、よりよい人間関係を作っていくためのコミュニケーションスキルの向上が必要となる。そのために、各教科を通して、学習スキルやコミュニケーションスキルを高めさせたい。そして、身につけた内容を生活科などの学習で生かせるようにしたい。

また、よりよい人間関係の構築のためには、情意面の育成も必要である。野菜栽培や生き物の学習を通して命の大切さにも気付かせたい。また、生活科での自分の成長を振り返る学習では、自分の成長や命は多くの人々に支えられていることを学ばせたい。

これらの学習を通して、自分と周りの人や物とのよりよいつながりを考え、感じ取らせたい。

② コミュニケーションスキル、命の学習に関する活動

言語活動の基礎の定着を図り、学習した内容を生かして思いや考えを交流させるとともに、地域とのかかわりも作りながら下記のような活動を進めていく。

ア コミュニケーションスキルを高めるための主な学習

※ 生活科以外の教科・領域は、単元名の前に表示した。

- ・ 1年生となかよくなろう会・学校探検（4月）
- ・ 町たんけん和町たんけんに向けた準備の学習（5月）
- ・ 国語科「ともこさんはどこかな」（6月）
- ・ 1年生となかよくしよう会（しゃぼん玉あそび）（7月）
- ・ 校外学習に向けた準備の学習（10月）
- ・ 学級活動「ふわふわ言葉ちくちく言葉」（10月）
- ・ 国語科「あったらいいな こんなもの」（11月）
- ・ 総合学習発表会（11月）
- ・ 1年生ともっとなかよくしよう会（2月）
- ・ 国語科「みんなできめよう」（2月）

イ 食や生き物の学習を通して、命や互いを大切にする気持ちを高めるための学習

- ・ ミニトマトの栽培・観察を通じた話し合い（5・6・7月）
- ・ 獣医師による動物ふれあい教室と、その後の思いや考えの交流（6月）
- ・ 夏野菜の栽培・観察を通じた話し合い（6・7月）
- ・ 給食栄養士との学習会（9月）
- ・ 農家の方をむかえての冬野菜の学習会（9月）
- ・ 冬野菜の栽培・観察を通じた話し合い（11・12月）
- ・ サツマイモの収穫と収穫を祝う会（12月）
- ・ 自分の成長を振り返る生活科の学習（1・2月）



【夏野菜の栽培と観察】



【1年生としゃぼん玉遊び】



【給食栄養士との学習会】

③ 生活科「レッツゴー・町たんけん」

2年生は、1年生に比べ活動の場が広がり、さらに3年生ではより地域の方とかかわる場面が増えてくる。そこで、よりよい人間関係を一層育むため、ソーシャルスキルトレーニングを通したコミュニケーションスキルの向上を目指すこととした。

ア 導入の様子

生活科の「町たんけん」の学習では、あいさつや質問の仕方、訪問するお店の方への声のかけ方、グループで問題が起きたときにどのように声をかけるかなどを、出かける前に学習した。その際、2年生児童は、グループごとに町探検に出かける前に、学年全体で商店街にどのようなお店があるのかを見に出かけた。その学習を振り返り、グループで出かける町たんけんでは、どのような準備が必要かを考えた。持ち物の準備以外に、ルールやマナーも知らなくてはいけないという意見が出され、町たんけんへの心の準備をしていこうということで、授業を展開していった。

イ 展開・認識の高まり場面の様子

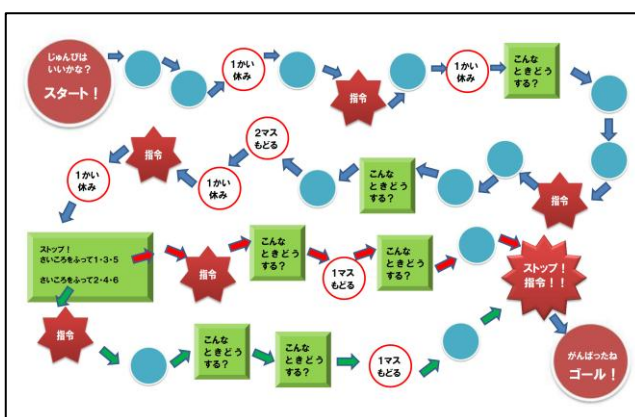
展開の場面では、通級教室などで用いられることの多いソーシャルスキルのすごろくを参考に、町たんけんが必要とされるコミュニケーションスキルを、すごろくを通して学ぶことにした。「あいさつ」のマス目では、「こんにちは」以外によりよい表現を児童に考えさせると、「お忙しいところすみません」といった言葉遣いや「自己紹介がいまするよ」という意見が出された。また、「町たんけんのグループで整列していない子がいたらどうするか」のマス目では、「怒るとけんかになるから、やさしく教えてあげる」「次は気を付けてね」などの意見が出された。

様々な場面のマス目で、児童は「〇〇さんと似ているんですけ・・・・」「〇〇さんの意見に付け足しで・・・」とよりよいコミュニケーションスキルは何であるかを考えることができた。これまでもっていた認識を、意見を出し合うことで高めようとする事ができた。

ウ 児童の感想や教師の反省

実際の町たんけんでは、丁寧な言葉遣いを心がけたり、お店の人が急にお客さんへの対応に追われたときに「忙しいのにすみません」と、相手のことを考えたりする児童の様子が見られた。また、お店の品物を見せてもらったときにも、自分だけでなく後ろにいる子が見やすいようにしゃがんだり、場所を譲り合ったりする姿も見られた。

町たんけん後の振り返りシートからは、町たんけん特に気を付けたことの記述で、「やさしい言い方に気を付けた」「言葉づかいや声の大きさに気を付けた」「おこらないようにした」など相手とのコミュニケーションのあり方を意識した記述が多く見られた。相手の考えや思いを受容しようとしたり、互いを尊重し合い認め合ってよりよく生きていこうとしたりする気持ちの高まりが見られた。



【授業で用いたソーシャルスキルすごろく】



【止まったマス目の設定場面で、よりよい言葉がけを考える】

エ その後の活動

2学期の校外学習（名古屋港水族館）に向けての準備においても、すごろくによるコミュニケーションスキル学習を行った。町たんけんと同じく外へ出かけて学習するという共通点から、校外学習が近づくと、多くの児童から「先生、すごろくで校外学習に出かける心の準備をしましょう」との声が聞かれた。実際に学習を行った際は、1学期の学習を踏まえていることや、これまでに様々な場面で人々と関わった経験も生かし、児童は前回よりも意欲的によりよいコミュニケーションの取り方について考えることができた。これまでは、自分のしたいことは我慢して、相手の気持ちに添う言葉がけを考える児童が多かったが、今回の学習では、自分の希望と相手の希望にどのように折り合いを付けていくかを踏まえた発言も多く出された。実際の校外学習では、見たい生き物を見ることができないときに「見たら代わってね」と声をかけたり、自分が見たい生き物があって先に行きたそうにしている仲間に「ここをみんなで見たら、〇〇くんの行きたい水槽に行くからね」と話したりする姿が見られた。

一方、教師の目がある学習場面では、よりよい言葉がけを意識しやすいが、休み時間などでは、なかなか身につけたことを実践することは難しい。そこで、2年生児童が2学期後半から休み時間に親しむようになってきたドッジボールを学級活動で取りあげ、単元「ふわふわドッジボール」として学習することとした。「ナイスボール!」「おしかったよ」「次頑張って!」などと、相手を思いやる言葉「ふわふわ言葉」を意識して掛け合って活動を行った。児童たちは、言葉のかけ方を工夫することでみんなが心地よく活動できることを味わうことができた。

(2) 実践の成果と課題

コミュニケーションスキルの向上と、情意面の育成を中心に取り組んだが、児童は町たんけん、校外学習など様々な場面で、よりよい人間関係の構築や維持を頭に置いて活動することが多くなった。また、困っている児童、手助けが必要な児童に気付いて、自分ができることをしようとする姿も見られてきた。「ドンマイ!」「大丈夫?」など、相手を励ます言葉がけも多く見られるようになってきた。これは自分だけでなく、周りのことも大切にして毎日を過ごそうとしている姿ではないかと考える。しかし、学年が上がるにつれ、かかわる人が増え、人間関係も複雑となり、経験する内容も一層難しくなってくる。そのためにも、2年生児童にとって必要とされるコミュニケーションスキルは何であるかを改めて見直していきたい。また、自分の考えや気持ちを説明するための言葉の力が不足している児童も多く、説明不足のためコミュニケーションがうまく成立しない場面が見られることも多い。そのような負の経験を積み重ねてしまうことで、自信をもって活動できないという結果になる児童もいる。今後は、教科と活動の効果的な連携を模索し、誰もがコミュニケーションの礎となる言葉の力を身につけられるような分かりやすい授業を実践していく必要があると考える。



【他のお客さんもいるから、しゃがんで見た方がいいね】



【今、どんな言葉をかければよかったかな?】